

大会宣言

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、収束の目処が立ちません。

私たちはコロナ禍により、活動の原点であった「会う」「集う」「語り合う」という機会が奪われ、社会生活の喜びや楽しみが失われています。

以前と違う新しい生活様式が求められ、コロナに関する新しい情報が報道されるなか、マスクをつけたままのコミュニケーションや、手話言語や字幕情報のない報道に落胆し不安を感じていました。

そのような状況下、県知事会見に手話通訳が付き、要約筆記による文字情報も入るようになりましたが、地方局のテレビ番組には手話言語や字幕がないため、まだまだ十分な情報が得られているとは言い難い状況です。

一方、コロナ禍ではオンラインを活用したコミュニケーションの機会が増えました。なかでも、手話言語や文字利用による情報保障の手段が進化し、公共インフラとして電話リレーサービスが開始されたことは大変喜ばしいことです。

また、コロナ禍における感染対策の有効的手段としてオンラインを活用した遠隔手話通訳の整備も県と連携して進めなければなりません。

さて、私たちはコロナ禍で立ち止まってはいられません。将来を見据え、「誰ひとり取り残さない」というSDGsの基本理念に基づき、ろう重複障害者、中途失聴・難聴者の課題に一層の取組みが必要です。聴覚障害に加え他の障害を有する、ろう重複障害者の社会参加や就労支援体制の問題、中途失聴・難聴者に対する情報保障である字幕の普及、要約筆記の周知など、その現状を多くの県民に理解していただくことがとても重要であると考えています。

私たちは、国民の全てが基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重され、誰もが障害の有無によって分け隔てられることなく、安心して暮らせる共生社会の実現に向け、8団体が連携し更なる運動を展開していくことをここに宣言します。